

はじめての

# 万葉集 [vol.27]

日本に現存する最古の  
和歌集『万葉集』を  
わかりやすくご紹介します。

いはまろ  
石麻呂に われ物申す 夏瘦に  
ものまを  
良しといふ物そ 鰻取り食せ  
むなぎ  
やせ

大伴家持

卷十六 三八五三番歌

（訳）石麻呂に私は申し上げたい。夏瘦せによいというものですよ。  
鰻をとつて召し上がりなさい。

## 夏はウナギ

この歌からは、奈良時代に夏の栄養源としてウナギを食べていたことがわかります。現代でも、夏の土用の丑の日には奮発してウナギを食べる、という人は多いのではないでしょうか。

歌に「夏瘦に良しといふ物そ」とあるように、当時から夏瘦せに効く滋養のある食べ物という認識はあったようですが、土用の丑の日と結びつけるようになったのは、ずっと後の江戸時代のことといわれています。そもそも「土用」とは、四季の変わり目となる立春・立夏・立秋・立冬それぞれの直前の十八～十九日間を指し、夏季限定ではありません。

この歌を贈られた石麻呂という人について『万葉集』には、本名を吉田老といい、教養がある立派な人物だったた

が生まれつきとても痩せていて、たくさん飲み食いしても飢えた人のようにやせ細った姿だった、と書かれています。

また、ウナギを詠んだ歌は、『万葉集』の中にもう一首あります。

瘦す瘦すも 生けらばあらむを  
はたやはた 鰻を取ると川に流るな

(三八五四番歌)

この歌では、あまりにも痩せているので、ウナギを捕ろうとして川に流されるなるよ、と相手をからかっています。

二首は、ともに大伴家持が吉田老に贈った歌です。遠慮の無い内容から、よほど親しい間柄だったのだろうと想像されます。「石麻呂にわれ物申す」や「鰻取り食せ」などと、あえてかしこまつた言葉遣いをしているのも冗談めかした言い方で、一人の仲の良さがうかがえます。

(本文 万葉文化館 井上さやか)



県内産のウナギ



漁で使用される「もんぢり」

問 奈良県漁業協同組合連合会  
奈良市芝辻町85-10  
☎0742-22-1410

問 県広報広聴課 ☎0742-27-8326 FAX0742-22-6904

奈良県の漁業協同組合では毎年5月頃にウナギの稚魚を放流し、県内の清流で育つたウナギを「もんぢり」や「はえなわ」といった漁法で捕っています。漁は新宮川水系や紀の川水系、淀川水系の川で行われていて、一般の人でも、遊漁券を購入すればウナギ釣りをすることができます。

## 奈良のウナギ



万葉ちゃん